

## 第2回 認知症対策部会における事前課題集計表

	認知症に関する課題について	目指すべき状態	考えられる対応策
案件(1) 認知症対策に関する課題等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医が少ない(どちらのDr.または病院が専門なのかわからない)</li> <li>・認知症の人が利用できるサービスがどの程度あるか把握できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい相談窓口が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアパスを作成し、各病院、医院、薬局などで手に取れるように配置。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発的な講演会や広告等が必要と思う。成年後見人での司法書士等の団体などからの講演。(認知症での事故や賠償問題もあるため)</li> <li>・高齢者は慢性疾患で介護保険を利用されていることもあり、途中から認知症を発症することもあり、ケアマネも認知症に対しての理解が必要と思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期に発見でき、治療を開始できるように、認知症に対しての偏見をなくすためには、手を差し伸べてくれる地域のコミュニティが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症対応の施設の見学。(グループホーム、病棟など)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関与する医師が少ない。</li> <li>・認知症とその家族が利用できるサービスの把握ができていない。</li> <li>・認知症の方や家族が相談できる窓口が周知されていない。</li> <li>・認知症の理解が浸透していないと感じている。</li> <li>・行動異常のある患者を受け入れる施設が少なく、すぐに受け入れられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供する人が生活圏域にいる。</li> <li>・一般市民対象・専門職対象用の認知症ケアパスを作成する。</li> <li>・一般に認知症の理解が深まる。</li> <li>・BPSD等の対応に熟知したスタッフを育てる。</li> <li>・早期に気軽に相談できる窓口があり、一般に周知されること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療介護連携推進部会とタイアップし、情報提供者を増やす。</li> <li>・この部会で認知症ケアパスを作成する。</li> <li>・認知症対応者養成講座を設ける。</li> <li>・行動異常への対応を学ぶ機会を設ける。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人を抱える家族が相談できたとしても、具体的に利用できるサービスに限りがある。(供給量の問題や家族心理としての抵抗感)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人や家族に対して近隣住民が理解し、僅かな変化にも関心を持ち、声をかけられる、又は相談機関につなげられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座の展開のひとつとして、『導入編』の実施。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの程度で認知症かも…と認識したらよいのかわかっていないため、相談した方がいいのか、調べた方がいいのか等タイミングがわかっていないのかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター養成講座を多くの市民が受けやすいように、時間帯や方法を多様化する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科の場合、認知症患者に対して関心が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科の場合、認知症患者にどの歯科医院でも対応できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科の場合、認知症患者にどの歯科医院でも対応できるように研修会を持ちたいです。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症患者に対応する社会的資源がまったく不足している。</li> <li>・介護施設でどの程度の認知症に対応できるかを明示すべき。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症サポート医を増やす</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的な認知症に対する世間体を気にして、表面化が難しい。</li> <li>・第一受診をどこにすればよいかわかりにくい。</li> <li>・認知症の人が利用できるサービスがどの程度あるか把握できていない。</li> <li>・認知症の方や家族が相談できる窓口認知度が低い。</li> <li>・認知症の理解がまだまだ地域に浸透していないと感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポート医が日常生活圏域に各1名程度いる。</li> <li>・一般市民対象・専門職対象用の認知症ケアパスがあり、各病院等にも配布できる。</li> <li>・認知症サポーター養成講座等を大半の市民が受講し、認知症の理解が深まっている。</li> <li>・病院内でもBPSD等の対応に熟知したスタッフが育っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療介護推進部会にも投げかけ、サポート医を増やす対策を共に考える。</li> <li>・部会で認知症ケアパスを作成する。</li> <li>・認知症サポーター養成講座を幅広く展開する。</li> <li>・他職種連携研修等でBPSD等への対応を学ぶ機会を設ける。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防、早期相談、早期診断、早期治療がスムーズに連携できる体制構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民にとって「認知症」は他人事ではなく、自分事(認知症を支える側としても)として、予防(健康な生活習慣)から早期の気づき、早期相談、医療、介護、見守りなどに対する理解を得る。</li> <li>・関係機関、多職種が連携し、予防～早期発見～早期支援体制が強化される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期集中支援チームの活動を有効にするための啓発活動</li> <li>・初期集中支援チームで対応した事例の積み上げとその事例検討と関係機関との共有</li> </ul>

案件 (2) 認知症ケアパスの方向性について	生駒市の認知症ケアパスはどのようなものが良いと思われますか	認知症ケアパスには、「認知症ケアの流れ」のほかに、どのような情報を掲載すべきと思われますか	
	・冊子形式が良いと思います。	・やはり相談窓口が見やすい所にあるほうがよい。	
	・ページ数の少ない冊子型	・BPSDでの相談先、対処。 ・デイサービス、ショートステイが利用できる施設名。	
	・リーフレット型 簡素なものが良い。	・相談窓口の連絡先、認知症のチェックリスト。 ・相談可能な医療機関のリスト。	
	・基本は、京田辺市のようなリーフレット型。 ただし、情報量によっては、6ページ程度の冊子でも良い。	・チェックリスト ・認知症と老化による物忘れとの違い。	
	なし	なし	
	・リーフレット型	・医療機関の紹介	
	・イラスト入りの冊子型が良いと思います。	・チェックリストや予防法。 ・程度別での利用できる施設のリスト。	
	・あまり大きくない冊子型(仕舞い込んでしまわず、手軽に見ることのできる容量と大きさが良いと思います。)	・相談窓口の連絡先、認知症が気になったときのチェックリスト。	
・市民が手に持って、活用しやすいものとしては冊子型でしょうか。	・本人・家族が「容態に応じた適時、適切な医療・介護などが受けられる」ための道筋がわかるよう、市の事業や支援体制(予防教室、早期相談、初期対応、早期診断、早期治療、カフェ、見守り等利用できるサービスをあらわしたもの ・生活の工夫、家族の対応方法		

	一般市民向け研修会	他職種連携研修会	
案件 (3) 認知症に関する研修企画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の病症状について分かりやすく説明、患者さんにどう対応するか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの職種の方がどのように患者さんと関わりを持ってもらえるか。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例にある永田久美子先生をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例にある新田國夫先生をお願い致します。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グランソール辻村病院 院長 中村光利氏 認知症に関する治療に精通</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立奈良医療センター 臨床心理士 東氏 高次脳機能障害の検査法等について実地臨床経験が豊富</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局提案が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局提案が良い。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西福祉科学大学 保健医療学部 作業療法士 横井賀津志先生 セルフチェックや訓練の仕方、対応の工夫などわかりやすい話。</li> </ul>	なし	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の予防方法を分かりやすく話していただける講師が良いと思います。</li> <li>・認知症の方の家族として段階別の対処法を具体的な事例で話される講師。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の経験を長く積み重ねてられる方が良いと思います。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症かなと思ったら、まずは身内の認知症という病気であることの受容のための基礎知識。どう対応したらよいのか、どこに相談に行けばよいのか、どこに受診すればよいのかなどの情報を含む内容。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の基礎知識</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民にとって身近なこととして考えるきっかけとしてもらいたいのので、「著名人で介護の経験のある方」など親しみが持てる方 例えば、精神科医 香山リカ氏 「洋七おかんがばい介護日記」の著者 漫才師 島田洋七氏 「ペコロスの母に会いに行く」の著者 岡野 雄一氏</li> <li>・自分事として考えてもらいたいのので、「おひとりさまの老後」著者 上野千鶴子氏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖マリアンナ医科大学名誉教授・認知症介護研究研修東京センター名誉センター長 長谷川和夫氏 「長谷川式簡易知能評価スケール」開発者として、認知症施策の重要点を教えていただく。</li> <li>・諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實氏 「地域医療を担う医療職として、人材育成の重要性を伝えてもらう</li> <li>・宇治市福祉サービス公社事務局次長 京都認知症カフェ連絡会 会長 社会福祉士 川北雄一郎氏 地域での事業展開の基本を教えていただく。</li> </ul>	